

3 へき地の医療

1 現状と課題

(1) へき地医療を支える医師の確保

現 状	課 題
<p>○県内には、無医地区※₁が9市町村23地区、無医地区に準じる地区※₂が7市町村11地区あります。</p> <p>○本県の人口10万人当たりの医療施設従事医師数は、287.8人で全国平均の233.6人を上回っています。</p> <p>○自治医科大学において、卒業後へき地に勤務する医師の養成を行い、卒業後は県職員として採用し、研修を除く義務年限※₃期間中、へき地医療拠点病院に派遣しています。</p> <p>○大学医学部に地域枠を設置し、へき地を含む医師不足地域で診療に従事する幅広い診療に対応できる医師を養成しています。</p>	<p>○県北の3保健医療圏（高梁・新見、真庭、津山・英田。以下同じ。）の他、県南2保健医療圏でも、岡山市、倉敷市及び早島町を除く12市町で人口10万人当たりの医師数が全国平均を下回り地域偏在が見られることから、地域の状況に応じた医師の確保が必要です。</p> <p>○義務年限終了後の県内定着率は59.7%で、全国平均69.6%を下回っていることから、関係団体や市町村と連携して県内定着率の向上を図る必要があります。（図表7-2-3-1）</p>

※1 無医地区

医療機関のない地域で、当該地区の中心的な場所を起点として、概ね半径4kmの区域内に50人以上が居住している地区であって、かつ、容易に医療機関を利用することができない地区。

※2 無医地区に準じる地区

無医地区の定義には該当しないものの、無医地区に準じた医療の確保が必要と認められる地区。

※3 義務年限

自治医科大学卒業後、知事の指定する医療機関で医師として勤務する期間。この期間を終了すると、大学在学中に貸与された修学資金の返還が免除されます。

図表7-2-3-1 義務年限終了後の自治医科大学卒業医師の勤務状況（平成28（2016）年度）

区 分	人 数	県内定着率	全国平均
義務年限終了者	62人		
県内勤務	37人	59.7%	69.6%
へき地医療機関勤務	17人		

（資料：岡山県医療推進課）

(2) へき地における診療体制の確保

現 状	課 題
<p>○へき地医療拠点病院を県内9か所指定するとともに、岡山済生会総合病院にへき地医療支援機構を設置し、へき地医療に係る計画・立案、事業調整等を実施しています。(図表7-2-3-2)</p> <p>○へき地医療拠点病院において、無医地区等への巡回診療(検診)や、へき地診療所への医師派遣等を行っています。</p> <p>○離島住民の健康を守るため、社会福祉法人恩賜財団済生会により、瀬戸内海巡回診療船「済生丸」が運営されています。</p> <p>○川崎医科大学附属病院により、ドクターヘリが運航されており、医師の少ない県北3保健医療圏の患者の搬送が、県全体の約50%を占めています。(平成27(2015)年度実績)</p> <p>○救急医療やへき地医療に貢献する病院を開設する医療法人を「社会医療法人[※]」として認定しています。</p>	<p>○へき地診療所については、人口の減少等から効率的な運営が困難なため、医師派遣に対する支援が必要です。</p> <p>○へき地では、専門医を確保することが困難であることからICTの活用等による遠隔からの支援体制の整備が望まれます。</p>

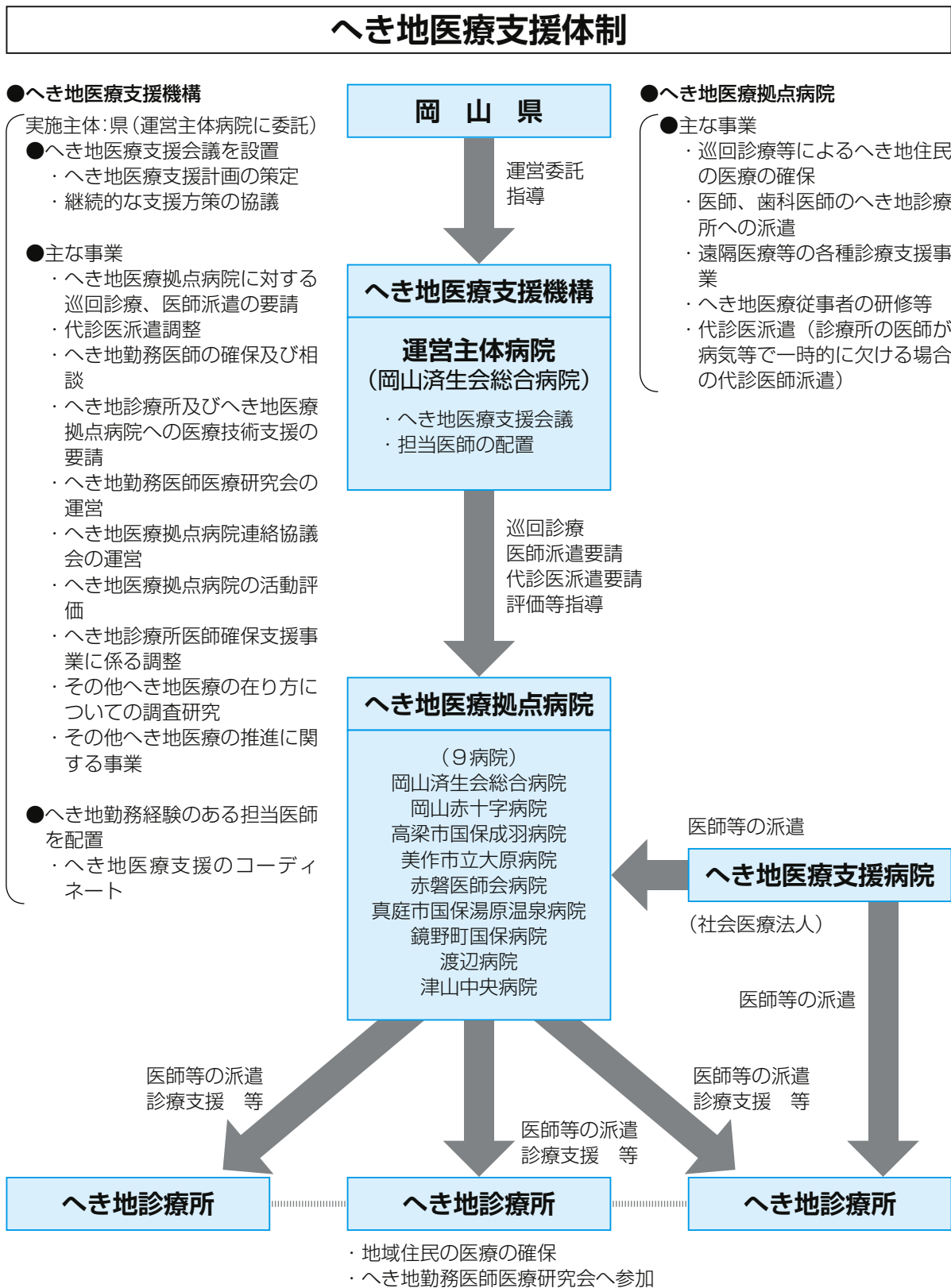
※ 社会医療法人

救急医療やへき地医療、周産期医療など特に地域で必要とされている医療の提供を担う、一定の要件を満たした医療法人を社会医療法人として認定し、良質かつ適切な医療を効率的に提供する体制の確保を図るものです。

(3) へき地に勤務する医師の支援体制

現 状	課 題
<p>○へき地医療支援機構により、へき地診療所への代診医派遣の調整やへき地勤務医師等を対象とした研修などを実施しています。</p>	<p>○へき地に勤務する医師が、最新の知識や技術を習得する機会を得られるなどキャリアアップを支援する枠組みづくりが求められています。</p>

図表7-2-3-2 へき地医療支援体制



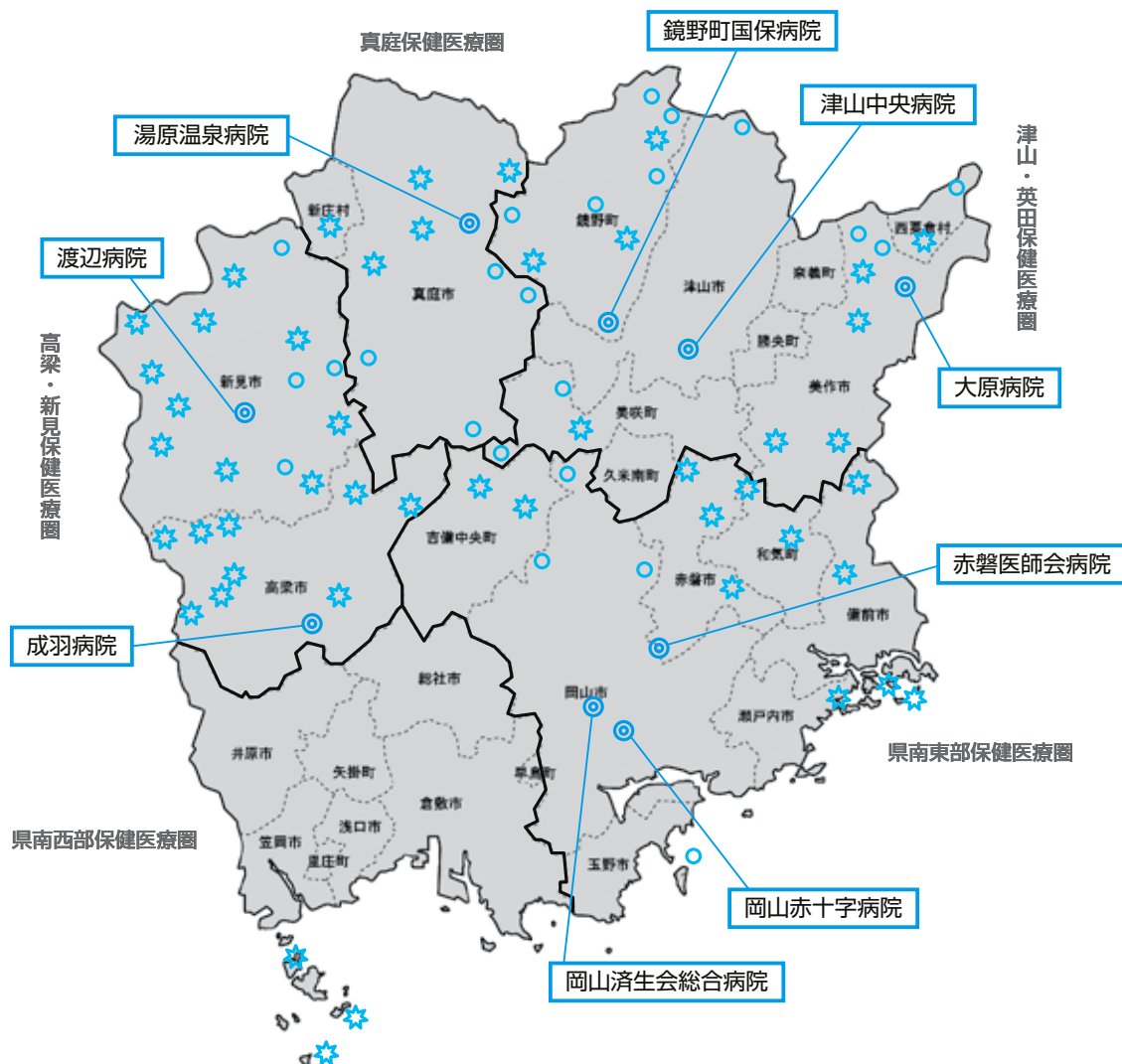
●その他のへき地医療支援

- ・瀬戸内海巡回診療船「済生丸」
- ・自治医科大学卒業医師のへき地定着促進
- ・へき地医療拠点病院、へき地診療所等に対する施設整備、設備整備、運営費などの各種補助金による支援等

(資料：岡山県医療推進課)

図表7-2-3-3 へき地保健医療対策現況図

(平成30(2018)年3月1日現在)



	県南東部	県南西部	高梁・新見	真庭	津山・英田	計
へき地医療拠点病院 ●	3	—	2	1	3	9
へき地診療所 ★	12	3	19	5	9	48
無医地区 ○	4	—	4	4	11	23

- 1 無医地区
医療機関のない地域で、当該地区の中心な場所を起点として、概ね半径4kmの区域内に50人以上が居住している地区であって、かつ、容易に医療機関を利用することができない地区
- 2 へき地診療所
医療機関のない地域で中心地から半径4kmの区域内に1,000人以上が居住し、容易に医療機関を利用することができない地区の住民の医療を確保するため、市町村等が設置する診療所
- 3 へき地医療拠点病院
無医地区等を対象とする巡回診療、へき地診療所等への医師派遣等、へき地における医療活動を継続的に実施できると認められる病院で知事が指定したもの

(資料：岡山県医療推進課)

2 施策の方向

項 目	施策の方向
へき地医療を支える 医師の確保	<ul style="list-style-type: none"> ○大学病院や臨床研修病院、へき地医療拠点病院等と連携しながら、医師の少ない県北等における医療提供体制を確保します。 ○自治医科大学卒業医師をへき地医療拠点病院に配置し、へき地診療所に派遣します。また、へき地診療所を運営する市町村との連携を図りながら、へき地勤務医師の確保・定着に努めます。 ○大学医学部の地域枠や寄付講座などにより、地域医療（へき地を含む）を担う医師の養成、確保に努めるとともに、大学や研修病院等と連携し、幅広い診療能力を有する医師の育成を図ります。 ○自治医科大学学生や自治医科大学卒業医師と地域枠の医学生、医師等との交流を深めるとともに、働きやすい環境づくりに努め、義務年限終了後の医師の県内定着と県外からのUターンを促進します。
へき地における診療 体制の維持	<ul style="list-style-type: none"> ○へき地医療拠点病院による巡回診療やへき地診療所への医師派遣を継続します。 ○へき地診療所等の設備整備の支援などにより、診療機能の充実を図ります。 ○へき地医療支援機構において、地域医療支援センターとのより緊密な連携を図りながら、医師派遣調整やへき地勤務医師のキャリア形成支援など、へき地医療対策の企画・調整等を行います。 ○瀬戸内海に離島を有する岡山、広島、香川、愛媛の4県が連携して、瀬戸内海巡回診療船「済生丸」運営事業への支援を行い、離島等の住民の健康管理と医療の確保に努めます。 ○へき地では救急患者の搬送に長時間を要するため、消防機関等と連携してドクターヘリ等を積極的に活用します。 ○情報通信技術（ICT）を活用し、へき地の医療機関が、中核病院の専門医から画像診断等の診療支援を受けることができる体制の整備に努めます。
へき地に勤務する医 師の支援体制の確保	<ul style="list-style-type: none"> ○へき地に勤務する医師が、学会や研修へ出席しやすくなるよう、代診医の派遣を行います。 ○地域医療支援センターや大学医学部の寄付講座、へき地医療拠点病院等と連携しながら、へき地医療を担う医師のキャリア形成を支援します。

3 数値目標

項 目	現 状	平成35年度末目標 (2023)
義務年限終了後も県内に定着している 自治医科大学卒業医師の割合	59.7% H28年度 (2016)	61.8%

【へき地の医療】

【ストラクチャー指標】 ※医療サービスを提供する物質資源、人的資源及び組織体制を測る指標

区分	指標名	調査年 (周期)	調査名等	現状		備考
				全国	岡山県	
へき地診療	へき地の数	H26年度 (2014) (5年毎)	無医地区等 調査	633地区 (0.5地区)	23地区 (1.2地区)	(人口10万対)
					4地区	県南東部
					0地区	県南西部
					4地区	高梁・新見
					4地区	真庭
		11地区	津山・英田			
	へき地診療所の数 (歯科を除く)	H28年度 (2016) (毎年)	へき地医療 現況調査	1,054施設 (0.8施設)	47施設 (2.5施設)	(人口10万対)
					12施設	県南東部
					2施設	県南西部
					19施設	高梁・新見
5施設					真庭	
	9施設	津山・英田				
へき地診療所の医師数	H28年度 (2016) (毎年)	へき地医療 現況調査	906人 (0.7人)	27.3人 (1.4人)	(人口10万対)	
へき地診療所の病床数	H28年度 (2016) (毎年)	へき地医療 現況調査	1,483床 (1.2床)	22床 (1.1床)	(人口10万対)	
へき地支援 医療	へき地医療拠点病院の数	H28年度 (2016) (毎年)	へき地医療 現況調査	313施設 (0.2施設)	9施設 (0.5施設)	(人口10万対)
					3施設	県南東部
					0施設	県南西部
					2施設	高梁・新見
					1施設	真庭
	3施設	津山・英田				
	へき地医療に関して一定の 実績を有するものとして認 定を受けた社会医療法人数	H28年度 (2016) (毎年)	へき地医療 現況調査	138法人	4法人	
行政機関等 の支援	へき地医療支援機構の数	H28年度 (2016) (毎年)	へき地医療 現況調査	40	1	
	へき地医療支援機構の専任・ 併任担当官数	H28年度 (2016) (毎年)	へき地医療 現況調査	42人	1人	

【へき地の医療】

【プロセス指標】 ※実際にサービスを提供する主体の活動や、他機関との連携体制を測る指標

区分	指標名		調査年 (周期)	調査名等	現状		備考
					全国	岡山県	
へき地 診療	へき地における診療・ 巡回診療の実施日数	診療日数	H28年度 (2016) (毎年)	へき地医療 現況調査	-	3,841日	
		巡回診療日数		へき地医療 現況調査	2,349.5日	0日	
	へき地における訪問診療・ 訪問看護の実施日数	訪問診療日数		へき地医療 現況調査	48,257日	614.5日	
		訪問看護日数		へき地医療 現況調査	37,760日	52日	
	へき地保健指導所の保健 活動日数及び対象者数	保健活動日数	H28年度 (2016) (毎年)	へき地医療 現況調査	5,951日	0日	
		対象者数		へき地医療 現況調査	24,418人	0人	
へき地 支援医療	へき地医療拠点病院から へき地への巡回診療実施 回数、延べ日数及び延べ 受診患者数	実施回数	H28年度 (2016) (毎年)	へき地医療 現況調査	5,236回	6回	
		実施延日数			3,999日	6日	
		延受診患者数			26,170人	155人	
	へき地医療拠点病院から へき地への医師派遣実施 回数及び延べ派遣日数	派遣回数	H28年度 (2016) (毎年)	へき地医療 現況調査	15,661回	1,518回	
		派遣延日数			13,278日	1,249日	
	へき地医療拠点病院から へき地への代診医派遣実 施回数及び延べ派遣日数	代診医派遣回数	H28年度 (2016) (毎年)	へき地医療 現況調査	4,222回	12回	
代診医派遣延日数		4,146日			12日		
遠隔医療等ICTを活用した 診療支援の実施状況		H28年度 (2016) (毎年)	へき地医療 現況調査	174施設	4施設		
行政機関 等の支援	協議会の開催回数		H28年度 (2016) (毎年)	へき地医療 現況調査	68回	2回	
	協議会等におけるへき地の医療従事者 (医師、歯科医師、看護師、薬剤師等) 確保の検討回数		H28年度 (2016) (毎年)	へき地医療 現況調査	44回	0回	

【アウトカム指標】 ※医療サービスの結果としての住民の健康状態を測る指標

区分	指標名	調査年 (周期)	調査名等	現状		備考
				全国	岡山県	
	(該当なし)					